

恒例となりました夏季研究協議会の第一部、読書会のご案内を致します。

- 1 日時 平成26年8月25日(月)午後2時～
- 2 場所 東京都立西高等学校
- 3 マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 4 コメントなど

ヴェーバー(1864-1920)は、価値・信念・宗教に関わる問題を、政治・経済・社会・歴史の中で総合的に探求した20世紀最大の社会学者です。

なぜ、近代以降、西欧が政治・経済・科学・学問など全世界を圧倒支配できたのか、その運命的な力となった資本主義の合理性と生活様式は普遍的な意味と価値をもちうるのか。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(以下『プロ倫』)はこのテーマを主題とした古典的名著です。

膨大なヴェーバーの学問分野ですので、論点やテーマが拡散しがちです。読書会では、授業教材の参考資料プリントに即して、まずは、緻密・膨大な注で通読が大変な『プロ倫』の要旨を宗教社会学・理解社会学の方法を用いて理解し、できれば、現代に生きる私たちの授業研究の課題として、「西欧近代合理性の進展が生みの価値の喪失と没意味化を生み出すニヒリズムへの警鐘・予言の書」とする視点から、ヴェーバーの学問の意義を考えたいと思います。

ヴェーバーは、実存的かつ学問的に真善美聖の価値の問題をどう探求したのか、価値の対立・緊張・葛藤の神々の闘争の厳しい時代に、「価値自由」な対話的な理性の可能性を求めて、皆様と探求するよい機会とできればと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

5 テキスト案内

- ①M. ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の「精神」』
大塚久雄訳岩波文庫(1991 ¥1500) 中山元訳(日経BP 2010 ¥2400)
- ②長部日出雄『マックス・ヴェーバー物語』(新潮選書2008 ¥1600)
ヴェーバーの時代と伝記。大著『プロ倫』の概要(pp. 373-420)が平易。
- ③姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代』(岩波現代文庫2003 初版は1986)
山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』(岩波新書1997)
「現代文明警告の書」のテーマ・視点の参考書として。
- ④牧野雅彦『マックス・ヴェーバー入門』(平凡社新書2006 ¥740)
安藤英治『人類の知的遺産マックス・ヴェーバー62』(講談社1979)
『プロ倫』以外のヴェーバーの学問の全体像と各著作の要旨理解に。